

総合市民センター

☎(24)9511 ㊟(23)7444

㊟祝日、年末年始

▼ガビン先生と楽しく学ぼう!

【日本の古典文学 祭】

十ちよっとウラ話

6月6日㊟、8月1日㊟、11月14日㊟、  
令和8年1月30日㊟10時～11時30  
分/内容=祭や行事を通して見える日  
本文化/講師=伊藤 雅敏先生/対象  
=市内在住者/定員=30人(申込順)  
/申込=4月17日㊟9時から電話にて



令和八年一月三十日(金)  
十時から十一時三十分

十ちよっとウラ話

No. 4

日本の古典文学 祭



ガビン先生と  
楽しく学ぼう



ガビオン  
ガビン先生  
のウラ話  
が、おもしろい。  
おもしろい。



藤野 香雅

雅野

てなら ちょう  
手習い帖その1 くに な  
国名

てなら ちょう  
手習い帖その1 くに な  
国名

常 常

〔常〕

〔陸〕

陸

陸

上 上

〔上〕

〔総〕

総

総

武 武

〔武〕

〔蔵〕

蔵

蔵

伊 伊

〔伊〕

〔豆〕

豆

豆

下 下

〔下〕

〔総〕

送

送

安 安

〔安〕

〔房〕

房

房

相 相

〔相〕

〔模〕

模

模

寺子屋 れきはく 手習い帖 その1

漢字 仮名

名前(手本を見て、字のかたちをまねて書いてみてください。)

自分の住んでいるところや、出身地を調べてみてください。

- 一、右の日本地図に印をつける
- 二、江戸時代の地図(本朝図鑑綱目)で、国名を確かめる



常陸 (今の茨城県の一部)



上総 (今の千葉県の一部)



常陸 下総 武蔵 相模 伊豆



下総 (今の千葉県・茨城県・東京都の一部)



安房 (今の千葉県の一部)



伊豆 (今の静岡県の一部)



相模 (今の神奈川県の一部)

邑名手本を見て、字のかたちをまねて国名を完成させてください。

てんじ 展示で、  
たしかめて！

寺子屋で使われた教科書がこの部屋に展示されています。  
「絵図・地図にみる近世」コーナーに、江戸時代の日本  
や世界の地図が、展示されています。

名前 \_\_\_\_\_ 年 月 日

くずし字表(教本に使われている仮名対応)

④

な	奈	な
に	尔	に
ぬ	奴	ぬ
ね	年	ね
の	乃	の

た	多	た
ち	知	ち
つ	川	つ
て	天	て
と	止	と

さ	左	さ
し	志	し
す	春	す
せ	世	せ
そ	曾	そ

か	可	か
き	起	起
く	久	く
け	介	け
こ	古	こ

あ	安	あ
い	以	い
う	宇	う
え	江	え
お	於	お

⑤

こ	王	わ
み	為	み
を	遠	を
互	恵	互
ん	无	ん

ら	良	ら
り	利	り
る	留	る
れ	連	れ
ろ	呂	ろ

や	也	や
ゆ	由	ゆ
よ	与	よ

ま	末	ま
み	三	み
む	武	む
め	女	め
も	毛	も

は	者	は
ひ	比	ひ
ふ	不	ふ
へ	部	へ
ほ	本	ほ

だくてん ちい じ ぶだんつか もじ おな てん ちい か ひょうげん  
濁点や小さい字は、普段使っている文字と同じように、点をつけたり小さく書いて表現してみよう。2022.6

主要変体が一覧

	あ段	い段	う段	え段	お段
あ行	ああ阿志也 安安阿悪受	い以伊了由 以以伊意移	う宇有云憂 宇宇有雲憂	え江要盈 衣江要盈	お於於 於於於
か行	かあう示賀承加 加可可開買我駕	かか災才花地 幾幾幾文花起	く久く會俣九靴 久久久具俣九求	け計介奇造氣 計計介奇造氣	こ己古故許期 己己古故許期
さ行	ささ佐佐散散沙 斜乍 斜乍	し之志新 之之志新	す寸春須須数番 寸寸春須須数番	せ世勢 世世勢	そ曾曾所所楚楚 蘇蘇
た行	た多堂當 太多多堂當	ち地進子 知知地進子	つ川徒都津 川川徒都津	て天帝亭傳轉 天天天帝亭傳轉	と登登東度徒等 止登登東度徒等
な行	な奈奈那那難 奈奈奈那那難	に尔尔二丹見耳 仁尔尔二丹見耳	ぬ怒努 奴怒努	ね祢年念熱 祢祢年念熱	の乃能能濃濃 乃乃能能濃濃
は行	は波者者者盤盤 半八破葉願 半八破葉願	ひ比比飛非悲日 比比飛非悲日	ふ不布婦 不不布婦	へ下通造倍弊 下下通造倍弊	ほ保保保本本報赤 保保保本本報赤
ま行	ま末末万萬真滿 末末末万萬真滿	み美美美三見身微 美美美三見身微	む武武無舞年勢天 武武無舞年勢天	め免面米 女免面米	も毛毛毛毛裝母茂 毛毛毛毛裝母茂
や行	や也也屋夜耶耶哉 也也屋夜耶耶哉		ゆ由由白遊 由由白遊		よ与与与餘余夜 与与与餘余夜
ら行	ら良良羅 良良羅	り利利里李梨理離 利利里李梨理離	る留留留流流累類 留留留流流累類	れ礼礼礼連麗 礼礼礼連麗	ろ呂呂呂路露露 呂呂呂路露露
わ行	わ和和王王倭 和和王王倭	わ為為并道 為為并道		ゑ惠惠惠衛 惠惠惠衛	を遠遠遠乎越 遠遠遠乎越

焼き肉を食べに行つて...

サモウケリス

「けむくても笑顔こぼれる タンロース

人の財布で へんべる焼き肉

×人間の浅きうさにかに樂して得するか 如実に表現

← 人が手を加えてない自然のよまの美しさやを表現したことは

「柳緑花紅」

政治家（蘇軾）の言葉 宋の時代の文人へ  
蘇東坡 1027 ~ 1101

漢語

「東坡禪喜集」

柳<sup>ハ</sup>緑<sup>ハ</sup>花<sup>ハ</sup>紅<sup>ハ</sup> 真<sup>ニ</sup>面<sup>モク</sup>目

リョウ<sup>リ</sup>キョウ<sup>リ</sup>カ<sup>カ</sup>コウ<sup>シ</sup>ン<sup>メ</sup>ン<sup>ボク</sup>

この言葉こそが本来のありのままの姿について語っている

柳の緑と花の紅の対比

春の美しい景色を表現している

本来は禅宗の教え「この自然の姿こそが悟りの境地」

← 転じて 悩んでいる姿にキリと輝く一瞬

人の性格や気質などの ありのままの姿を意味する

茶道「四月頃に「柳緑花紅」を掛ける

ありのままの姿を意味し入れるといふ道

元は北宋時代へ酒仙遇賢の言葉

「秋至は 山寒く水冷ややかに

春來たれば 柳は緑 花は紅なり」

つれく箱

お釈迦さま文庫止徹本

⑧

灌佛の比る个のくうまの魚の箱

すーくしきるわくわく箱うせの

あらぬのくはきーかかたかー

くのねねからくーかあーかあ

あーんあ月あああくうまあま

く井ああああああああああ

くお河乃らああああああ乃

あああああああああああ

あああああああああああ

あああああああああああ

あああああああああああ

あああああああああああ

ああああああ

「灌仏の比 祭の比 若葉の梢

涼一げに茂りゆく程こそ世の

あはれも人の恋一さもまされ」と

人のおぼせられ一こそ げにせらるもの

かれ 五月 あやめふく比 早苗とるころ

水鶏のたたくなと 心ぼそからぬかは

六月みながつきの比 あや一き家いへに 夕ゆふがはの

白くみえて 蚊遣火ふすぶるも

あはれなより 六月みながつき秋あき又またをか

七夕たなばたまつるりこそ なまめか一けれ

やうやう夜寒よすむいになるほど 雁鳴かりきてくるころ

菽あずきの下葉 色づくほど 早わさ田だ刈かりすなど とり

あつめたることは 秋のみぞ灼あかる 又野分のあ一に

こそをか一けれ

「灌仏会のころ 賀茂祭のころ 若葉が梢も

見るから涼——そうに茂ってゆく時分こそ 一この世の

あわれも 人恋しさも いつもより深く感じられる」と

ある方がおっしゃったことがあるが、またたくそのとおりである

五月の菖蒲を屋根にぶくころ 早苗をとと田植えをするころ

水鶏が戸をたたくような声で鳴くのほどにさびしくなっていくか

そのころか

六月のころ みすぼらしい家に 夕顔の花が

白く見えて 蚊遣り火をいぶしているのも

あわれだ 六月晦日ササガの大坂の行事もあわれだ

七月七日に七夕を祭るのは まことに優雅なものである

——だいに夜気が寒くなるのも 雁こりが鳴来るっているころ

秋の下葉が黄色くはなってくるころ 早稲の田を刈りあげて干すなど

あわれのと一時ひとときに行われるというものは 秋に夕ゆふの野分の明くる朝あしたの

様子は

あわれである

灌仏会 陰曆四月八日 釈迦生誕祭

賀茂祭 祭といえは、陰曆四月中の酉の日

ゆげれ ーみじみとーた趣きがある

興趣がある 趣きがある

おぼせられる 敬語……

五月五日 邪気を払うため 昔白濁の葉を屋根にふいた

水鷄 20cm くらゐの鳥 冬に渡来 池沼に住むモウキョウ

夕顔 源氏物語 X 鳴く たたく 哀愁たより声

蚊遣り火 草木をいぶいた ぶすぶす

六月 夕方の川原で邪気を払う

夏越の祓 人形にこすり ↓ 流す

遣唐使 乞巧奠 七夕 技芸上達を祈る

やうやう 秋草子

秋草子

野分 秋の台風 源氏物語

あーた 朝

「成田空港 空と大地の歴史館」について

成田空港は、1966年7月4日に成田市三里塚に建設されることになりました。その時から、地域を守ろうと空港建設に必死で反対した農民やその支援者、日本のために必死に新空港を建設しようとした人々、そして、対立の周囲にいた住民たちの苦悩の歴史が始まり、力と力の対立のなかで犠牲をとまいました。

その後、建設側と反対側との公開討論を経て、成田空港問題について地域も巻きこんだ話し合いが進んでいきます。

地域と空港をめぐる歴史の経緯とそこにかかわったさまざまな立場の人々の苦悩と想い、これらを複眼的な視点からとらえ、この地に刻まれた歴史をできるだけ正確に後世につたえていくことを目指して当館は建設されました。



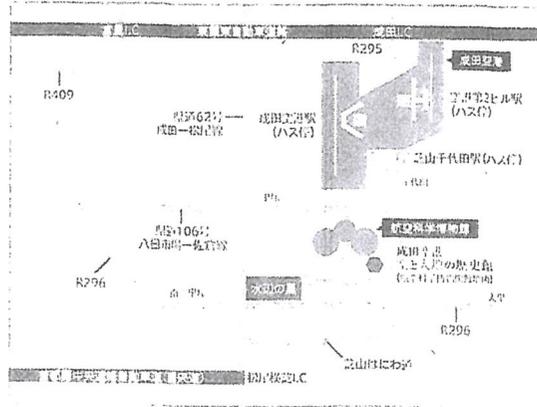
昔と今の成田空港と周辺地域



ご利用案内

入館料 無料  
 開館時間 午前10:00～午後5:00 ※入館は午後4:30までです。  
 休館日 月曜日(祝日または振替休日の場合はその翌日)  
 年末年始(12月29日～1月31日)  
 (注) 展示替え等により臨時休館する場合があります。  
 ● 団体(20名程度)での見学の場合は、なるべく事前に当館へご連絡ください

交通のご案内



車の場合 駐車場有り(無料)  
 電車の場合 JR・京成 成田空港駅または空港第2ビル駅、芝山鉄道 芝山千代田駅からハス(各駅からの所要時間は10～15分)  
 航空科学博物館Rにて下車。  
 ※事前にハスの時刻をご確認ください

お問い合わせ先

成田空港 Narita Airport and Community Historical Museum

空と大地の歴史館

〒289-1608 千葉県山武郡芝山町岩山113-2  
 電話 0479-78-2501  
 FAX 0479-78-2502  
 e mail rekishi@naa.jp



成田空港



歴史館

Narita Airport and Community Historical Museum



空港をめぐり、この地に刻まれた歴史を後世に伝えます。

### III 1970年前後の社会

1970年前後の日本、そして世界を取り巻く情勢が、空港反対運動に影響を及ぼしました。1970年前後の社会とはどのような社会だったのでしょうか。

### IV 流血の日々

空港を建設する側と反対する側とは、力と力で激しくぶつかりのちを失う者までありました。どのような苦悩があったのでしょうか。

●一時期、成田に拠点を置いたドキュメンタリー映画制作集団の小川プロダクションの活動と映像にも光をあてています。

### V 成田開港

新空港の位置決定から約12年を経た1978年5月20日、反対運動が続くなか、遂に成田空港が開港しました。そのときの様子に焦点をあてています。

### VI 長く重い時間

空港は開港し成長する一方、反対同盟のなかには国・空港公園との話し合いを模索する動きもでてきます。膠着状態を打開する双方の動きに注目し、展示しています。

### VII シンポジウムと円卓会議

地域振興連絡協議会の呼びかけで、国・空港公園と反対同盟の公開による話し合いの場がもたれました。その話し合いの様子を映像もまじえて紹介します。

港地死守



### II 空港のはじまり

1960年代の高度経済成長に伴い新空港が必要になり、位置は成田市三里塚に決まります。当時の時代背景と突然空港予定地となった地元の人たちの動きをたどっています。

朝日のラウンジ  
休憩・談話コーナー

展示室入口左右には、空港とその周辺の昔と今の姿がわかるように空撮写真を展示しています。

### I どんどころへ

新空港の予定地となった地域はどのような地域で、人々はどのように暮らしていたのでしょうか。

企画展示室  
さまざまなテーマに焦点をあてた企画展示を随時開催します。

### VIII 地域にさす光

シンポジウムと円卓会議での話し合いを通して、地域社会と空港が共に生きることを目指す「共生」という理念が生まれました。「共生」の理念に基づいた活動を通じ地域社会再建を目指した動きを展示しています。



### IX 成田空港の今と未来

成田空港は、共生を実現し地域とともに進化を遂げていきました。地域と空港の「共生」を信じた動きも出てきました。成田空港の今と未来に焦点をあてています。